

## 令和6年度佐賀市自然環境懇話会の会議結果について

令和6年10月18日に開催しました審議会の概要は下記のとおりです。

### 記

#### 1 開催日時

令和6年10月18日（金）10時00分から12時05分

#### 2 開催場所

佐賀市役所 大財別館 4-2会議室

#### 3 出席した者の氏名

【委員】（委員総数4名、欠席1名）

上赤博文（座長）、八木ひとみ、徳田誠

【事務局（環境部環境政策課）】

梶山副部長、福本副課長、香田係長、山本主任、徳山主事

#### 4 議題

1. 公共工事に伴う環境調査の実施状況について
2. ナガエツルノゲイトウ・ブラジルチドメグサの防除状況について
3. 環境基本計画（素案）について

#### 5 会議の公開又は非公開の別

非公開

#### 6 非公開の理由

希少動植物の分布に関する情報の公開は、かえって当該生物の乱獲等を招きかねず、佐賀市情報公開条例第6条第6号に該当するため。

#### 7 傍聴者数

0人（非公開）

#### 8 議事概要

○議事1について

### 【委員】

- ・コウガイセキショウモ（外来水草）は河川清掃で広がっていると思われる。河川清掃や工事の際に流出防止が必要。また、国内外来種も同様に流出防止をしたほうが良い。
- ・資料の中に工期を入れてほしい。工期は変更することもあるかもしれないが、予定というのをに入れてほしい。
- ・佐賀平野のクリークは、調査をすればどんな希少種が出るか分からない。既には場整備が終わったところから消えてしまったものが、まだ生き残っている可能性がある。過去にはほ場整備によって、その場所のアリアケスジシマドジョウの生息地が消えてしまったことがある。もう保全対策を失敗するわけにはいかないと思う。
- ・以前ほ場整備されていた場所で、県が魚類に配慮した方法で工事された場所があったと思う。アリアケスジシマドジョウの繁殖など、学会でも取り上げられた良い例があるので、制約等あると思うが、是非参考にしてほしい。
- ・工事の計画が決まっているので変えられないというのが過去には多くあった。佐賀平野のクリーク、特に鍋島地区は大事な場所が多い。早めに調査を行い、どこまで修正できるかというのを早めに判断した方が良い。

### 【事務局】

- ・委員からの意見や提案は工事担当課に伝え、可能な限り工事に反映する。
- ・未調査の案件についても、早急に調査、検討を行う。

### ○議事2について

#### 【委員】

- ・ナガエツルノゲイトウは地元の人たちと協力して防除すると良い。多額の予算を使っているのなら、団体対抗のゲームのようにするなど、市民の方々が除去したくなるようにしてはどうか。発想の転換で面白い形でやれば佐賀市のPRにもなると思う。

#### 【事務局】

- ・市民の方々に除去してもらうのは、河川清掃を主に続いている。その中でナガエツルノゲイトウも除去できるように、防除マニュアルの配布を行っている。

#### 【委員】

- ・ナガエツルノゲイトウの根は1メートル以上あるという話があり、表土を浚渫するくらいでは根が残ってしまう。根が3ミリメートル残っていれば再生するという話もあるので、根絶はおそらく不可能である。これ以上、広げない対策でない現実的でない。

#### 【事務局】

- ・根からの除去に関しても原課と共有して除去を促しているが、根から除去しようとするとしても土混じりになってしまう。土は焼却場での処分ができないので、処分の方法というのも課題である。

**【委員】**

- ・東与賀のシチメンソウのヤードにナガエツルノゲイトウが生育しているのを見たが、今は無くなっているかもしれない。ナガエツルノゲイトウは塩分に対する耐性もあると聞いている。今すぐ対策が必要という話ではないが情報共有した。
- ・ナガエツルノゲイトウは流れて増えているが、ブラジルチドメグサは思わぬところに出てくることもあり、これは鳥が運んでいると思う。糞に混ざったり、植物片を身体につけて運んだりしている。

○議事3について

**【委員】**

- ・ミズオオバコが現在は見られないという話があったが、鳥類でいうと、佐賀県ではカササギが激減している。そこも覚えておいていただきたい。
- ・日本野鳥の会佐賀県支部では佐賀市でコアジサシの保護活動をしており、成功している。佐賀モデルといえるほど効果を上げているので、そういう鳥がいることも知っていただきたい。

**【事務局】**

- ・計画の中にコアジサシの写真が掲載できるかどうかは検討したい。

**【委員】**

- ・環境に配慮する工事は予算の問題等で両立が難しいと聞くが、計画の中ではネイチャーポジティブをやりますと入っている。分かっているができないというのは市の中の問題ではないか。計画通りにやるのはどうすればいいか。

**【事務局】**

- ・財政状況は非常に厳しいものがあるが、計画の中に盛り込んでいくことに意味があると考えます。懇話会で出た様々な意見はここに反映させたい。

**【委員】**

- ・今回もトンボの保全というのが一つの大きな柱になると思う。「トンボの数が減少しています」とあるが、原因は農薬の影響だと分かっている。農薬の種類を変えることによってトンボの復活が起こるのは分かっているので、環境政策課だけでなく農業関係の課との協力体制というのを書き込めないか。農業と環境との共生というような形で、「農薬についても配慮していきます」あるいは「考えていきます」みたいな言葉を入れてほしい。
- ・30by30は環境省だけで行っていたが、生物多様性増進活動促進法は環境省に加え、農水省と国交省も関与している。ここにも環境政策課だけでなく、関連部署の名前を入れられないか。

**【事務局】**

- ・各部署との調整の段階で、話が発展していない可能性がある。各部署に確認し、関連する動きがあれば記載をしたい。

- ・生物多様性増進活動促進法は分野を横断した取組が必要だということの表れだと思う。今年度も開催予定の職員研修会等でも周知を図っていきたい。農薬の話などを計画に反映させるかどうかも検討したい。

**【委員】**

- ・「計画の主体と役割」に関して、市民、事業者、行政の三つが記載されているが、「学」がない。計画の大本の部分なので変えるのは難しいと思うが、学がないのは問題だと思う。
- ・市役所と大学は距離的にも近く、これまでも様々なことで協力している。大学の使えるものは積極的に活用してもらいたい。

**【事務局】**

- ・「学」をどのように表現するか、ご意見を参考にしながら検討したい。

9 問い合わせ先

佐賀市環境部 環境政策課 自然環境係

担当者 徳山

電話番号 0952-40-7202